

ミカ書

1

2

3

4

5

6

7

第 1 章

ユダの王ヨタム、アハズおよびヒゼキヤの世に、モレシテびとミカが、サマリヤとエルサレムについて示された主の言葉。

2 あなたがたすべての民よ、聞け。地とその中に満てる者よ、耳を傾けよ。主なる神はあなたがたにむかって証言し、主はその聖なる宮から証言される。

3 見よ、主はそこご座所から出てこられ、下ってきて地の高い所を踏まれる。

4 山は彼の下に溶け、谷は裂け、火の前のろうのごとく、坂に流れる水のように。

5 これはみなヤコブのとがのゆえ、イスラエルの家の罪のゆえである。ヤコブのとがとは何か、サマリヤではないか。ユダの家の罪とは何か、エルサレムではないか。

6 このゆえにわたしはサマリヤを野の石塚となし、ぶどうを植える所となし、またその石を谷に投げ落し、その基をあらわにする。

7 その彫像はみな砕かれ、その獲た価はみな火で焼かれる。わたしはその偶像をことごとくこわす。これは遊女の価から集めたのだから、遊女の価に帰る。

8 わたしはこれがために嘆き悲しみ、はだしと裸で歩きまわり、山犬のように嘆き、だちょうのように悲しみ鳴く。

9 サマリヤの傷はいやすことのできないもので、ユダまでひろがり、わが民の門、エルサレムまで及んでいる。

10 ガテに告げるな、泣き叫ぶな。ベテレアフラで、ちりの中にくろがれ。

11 サピルに住む者よ、裸になり、恥をこうむって進み行け。ザアナンに住む者は出てこない。ベテエゼルの嘆きはあなたがたからその跡を断つ。

12 マロテに住む者は気づかわしように幸を待つ。災が主から出て、エルサレムの門に臨んだからである。

13 ラキシに住む者よ、戦車に早馬をつなげ。ラキシはシオンの娘にとって罪の初めであった。イスラエルのとがが、あなたがたのうちに見られたからである。

14 それゆえ、あなたはモレセテ・ガテに / 別れの贈り物を与える。アクジブの家々はイスラエルの王たちにとって、人を欺くものとなる。

15 マレシャに住む者よ、わたしはまた侵略者をあなたの所に連れて行く。イスラエルの栄光はアドラムに去るであろう。

16 あなたの喜ぶ子らのために、あなたの髪をそり落せ。そのそった所をはげたかのように大きくせよ。彼らは捕えられてあなたを離れるからである。

第 2 章

その床の上で不義を計り、悪を行う者はわざわざいである。彼らはその手に力あるゆえ、夜が明けるとこれを行う。

² 彼らは田畑をむさぼってこれを奪い、家をむさぼってこれを取る。彼らは人をしえたげてその家を奪い、人をしえたげてその嗣業を奪う。

³ それゆえ、主はこう言われる、見よ、わたしはこのやからにむかって／災を下そうと計る。あなたがたはその首を／これから、はずすことはできない。また、まっすぐに立って歩くことはできない。これは災の時だからである。

⁴ その日、人々は歌を作ってあなたがたをののしり、悲しみの歌をもって嘆き悲しみ、「われわれはことごとく滅ぼされる、わが民の分は人に与えられる。どうしてこれはわたしから離れるのであろう。われわれの田畑は／われわれを捕えた者の間に分け与えられる」と言う。

⁵ それゆえ、主の会衆のうちには／くじによって測りなわを張る者はひとりもなくなる。

⁶ 彼らは言う、「あなたがたは説教してはならない。そのような事について説教してはならない。そうすればわれわれは恥をこうむることがない」と。

⁷ ヤコブの家よ、そんなことは言えるのだろうか。主は気短な方であろうか。これらは主のみわざなのであろうか。わが言葉は正しく歩む者に、益とならないのであろうか。

⁸ ところが、あなたがたは立ってわが民の敵となり、いくさのことを知らずに、安らかに過ぎゆく者から、平和な者から、上着をはぎ取り、

⁹ わが民の女たちをその楽しい家から追い出し、その子どもから、わが栄えをとこしえに奪う。

¹⁰ 立って去れ、これはあなたがたの休み場所ではない。これは汚れのゆえに滅びる。その滅びは悲惨な滅びだ。

¹¹ もし人が風に歩み、偽りを言い、「わたしはぶどう酒と濃き酒とについて、あなたに説教しよう」と言うならば、その人はこの民の説教者となるであろう。

¹² ヤコブよ、わたしは必ずあなたをことごとく集め、イスラエルの残れる者を集める。わたしはこれをおりの羊のように、牧場の中の群れのように共におく。これは人の多きによって騒がしくなる。

¹³ 打ち破る者は彼らに先だって登りゆき、彼らは門を打ち破り、これをとおって外に出て行く。彼らの王はその前に進み、主はその先頭に立たれる。

第3章

わたしは言った、ヤコブのかしらたちよ、イスラエルの家のつかさたちよ、聞け、公義はあなたがたの知っておるべきことではないか。

² あなたがたは善を憎み、悪を愛し、わが民の身から皮をはぎ、その骨から肉をそぎ、

³ またわが民の肉を食らい、その皮をはぎ、その骨を砕き、これを切りきざんで、なべに入れる食物のようにし、大なべに入れる肉のようにする。

⁴ こうして彼らが主に呼ばわっても、主はお答えにならない。かえってその時には、み顔を彼らに隠される。彼らのおこないが悪いからである。

⁵ わが民を惑わす預言者について主はこう言われる、彼らは食べ物のある時には、「平安」を叫ぶけれども、その口に何も与えない者にむかっては、宣戦を布告する。

⁶ それゆえ、あなたがたには夜があっても幻がなく、暗やみがあっても占いが無い。太陽はその預言者たちに没し、昼も彼らの上に暗くなる。

⁷ 先見者は恥をかき、占い師は顔をあからめ、彼らは皆そのくちびるをおおう。神の答がないからである。

⁸ しかしわたしは主のみたまによって力に満ち、公義と勇気とに満たされ、ヤコブにその

とがを示し、イスラエルにその罪を示すことができる。

⁹ ヤコブの家のかしらたち、イスラエルの家のつかさたちよ、すなわち公義を憎み、すべての正しい事を曲げる者よ、これを聞け。

¹⁰ あなたがたは血をもってシオンを建て、不義をもってエルサレムを建てた。

¹¹ そのかしらたちは、まいないをとってさばき、その祭司たちは価をとって教え、その預言者たちは金をとって占う。しかもなお彼らは主に寄り頼んで、「主はわれわれの中におられるではないか、だから災はわれわれに臨むことがない」と言う。

¹² それゆえ、シオンはあなたがたのゆえに / 田畑となって耕され、エルサレムは石塚となり、宮の山は木のおい茂る高い所となる。

第 4 章

末の日になって、主の家の山はもろもろの山のかしらとして / 堅く立てられ、もろもろの峰よりも高くあげられ、もろもろの民はこれに流れくる。

² 多くの国民は来て言う、「さあ、われわれは主の山に登り、ヤコブの神の家に行こう。彼はその道をわれわれに教え、われわれはその道に歩もう」と。律法はシオンから出、主の言葉はエルサレムから出るからである。

³ 彼は多くの民の間をさばき、遠い所まで強い国々のために仲裁される。そこで彼らはつるぎを打ちかえて、すきとし、そのやりを打ちかえて、かまとし、国は国にむかってつるぎをあげず、再び戦いのことを学ばない。

⁴ 彼らは皆そのぶどうの木の下に座し、そのいちじくの木の下にいる。彼らを恐れさせる者はない。これは万軍の主がその口で語られたことである。

⁵ すべての民はおのおのその神の名によって歩む。しかしわれわれは / われわれの神、主の名によって、とこしえに歩む。

⁶ 主は言われる、その日には、わたしはかの足のなえた者を集め、またかの追いやられた者および / わたしが苦しめた者を集め、

⁷ その足のなえた者を残れる民とし、遠く追いやられた者を強い国民とする。主はシオンの山で、今よりとこしえに / 彼らを治められる。

⁸ 羊の群れのやぐら、シオンの娘の山よ、以前の主権はあなたに帰ってくる。すなわちエルサレムの娘の国は / あなたに帰ってくる。

⁹ 今あなたは何ゆえわめき叫ぶのか、あなたのうちに王がないのか。あなたの相談相手は絶えはて、産婦のように激しい痛みがあなたを捕えたのか。

¹⁰ シオンの娘よ、産婦のように苦しんでうめけ。あなたは今、町を出て野にやどり、バビロンに行かなければならない。その所であなたは救われる。主はその所であなたを敵の手からあがなわれる。

¹¹ いま多くの国民はあなたに逆らい、集まって言う、「どうかシオンが汚されるように、われわれの目がシオンを見てあざ笑うように」と。

¹² しかし彼らは主の思いを知らず、またその計画を悟らない。すなわち主が麦束を打ち場に集めるように、彼らを集められることを悟らない。

¹³ シオンの娘よ、立って打ちこなせ。わたしはあなたの角を鉄となし、あなたのひずめを青銅としよう。あなたは多くの民を打ち砕き、彼らのぶんどり物を主にささげ、彼らの富を全地の主にささげる。

第 5 章

今 あなたは壁でとりまかれている。敵はわれわれを攻め囲み、つえをもってイスラエルのつかさのほおを撃つ。

² しかしベツレヘム・エフラタよ、あなたはユダの氏族のうちで小さい者だが、イスラエルを治める者があなたのうちから／わたしのために出る。その出るのは昔から、いにしえの日からである。

³ それゆえ、産婦の産みおとす時まで、主は彼らを渡しおかれる。その後その兄弟たちの残れる者は／イスラエルの子らのもとに帰る。

⁴ 彼は主の力により、その神、主の名の威光により、立ってその群れを養い、彼らを安らかにおらせる。今、彼は大きい者となって、地の果にまで及ぶからである。

⁵ これは平和である。アッスリヤびとがわれわれの国に来て、われわれの土地を踏むとき、七人の牧者を起し、八人の君を起してこれに当らせる。

⁶ 彼らはつるぎをもってアッスリヤの地を治め、ぬきみのつるぎをもってニムロデの地を治める。アッスリヤびとがわれわれの地に来て、われわれの境を踏み荒すとき、彼らはアッスリヤびとから、われわれを救う。

⁷ その時ヤコブの残れる者は多くの民の中にあること、人によらず、また人の子らを待たずに／主からくだる露のごとく、青草の上に降る夕立ちのようである。

⁸ またヤコブの残れる者が国々の中におり、多くの民の中にいること、林の獣の中のししのごとく、羊の群れの中の若いししのようである。それが過ぎるときは踏み、かつ裂いて救う者はない。

⁹ あなたの手はもろもろのあだの上にあげられ、あなたの敵はことごとく断たれる。

¹⁰ 主は言われる、その日には、わたしはあなたのうちから馬を絶やし、戦車をこわし、

¹¹ あなたの国の町々を絶やし、あなたの城をことごとくくつがえす。

¹² またあなたの手から魔術を絶やす。あなたのうちには占い師がないようになる。

¹³ またあなたのうちから彫像および石の柱を絶やす。あなたは重ねて手で作った物を持つことはない。

¹⁴ またあなたのうちからアシラ像を抜き倒し、あなたの町々を滅ぼす。

¹⁵ そしてわたしは怒りと憤りをもって／その聞き従わないもろもろの国民に復讐する。

第 6 章

あ なたがたは／主の言われることを聞き、立ちあがって、もろもろの山の前に訴えをのべ、もろもろの丘にあなたの声を聞かせよ。

² もろもろの山よ、地の変ることなき基よ、主の言い争いを聞け。主はその民と言い争い、イスラエルと論争されるからである。

³ 「わが民よ、わたしはあなたに何をなしたか、何によってあなたを疲れさせたか、わたしに答えよ。

⁴ わたしはエジプトの国からあなたを導きのぼり、奴隸の家からあなたをあがない出し、モーセ、アロンおよびミリアムをつかわして、あなたに先だたせた。

⁵ わが民よ、モアブの王バラクがたくらんだ事、ベオルの子バラムが彼に答えた事、シッテムからギルガルに至るまでに／起った事どもを思い起せ。そうすれば、あなたは主の正義のみわざを／知るであろう」。

⁶ 「わたしは何をもって主のみ前に行き、高き神を拝すべきか。燔祭および当歳の子牛をもって／そのみ前に行くべきか。

⁷ 主は数千の雄羊、万流の油を喜ばれるだろうか。わがとがのためにわが長子をささぐべ

きか。わが魂の罪のためにわが身の子をささぐべきか」。

⁸ 人よ、彼はさきによい事のなんであるかを / あなたに告げられた。主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、いつくしみを愛し、へりくだってあなたの神と共に歩むことではないか。

⁹ 主の声が町にむかって呼ばれる——全き知恵はあなたの名を恐れることである——「部族および町の会衆よ、聞け。

¹⁰ わたしは悪人の家にある不義の財宝、のろうべき不正な枴を忘れ得ようか。

¹¹ 不正なはかりを用い、偽りのおもしを入れた袋を用いる人を / わたしは罪なしとするだろうか。

¹² あなたのうちの富める人は暴虐で満ち、あなたの住民は偽りを言い、その舌は口で欺くことをなす。

¹³ それゆえ、わたしはあなたを撃ち、あなたをその罪のために滅ぼすことを始めた。

¹⁴ あなたは食べても、飽くことがなく、あなたの腹はいつもひもじい。あなたは移しても、救うことができない。あなたが救う者を、わたしはつるぎにわたす。

¹⁵ あなたは種をまいても、刈ることがなく、オリブの実を踏んでも、その身に油を塗ることがなく、ぶどうを踏んでも、その酒を飲むことがない。

¹⁶ あなたはオムリの定めを守り、アハブの家のすべてのわざをおこない、彼らの計りごとに従って歩んだ。これはわたしがあなたを荒し、その住民を笑い物とするためである。あなたがたは民のはずかしめを負わねばならぬ」。

第 7 章

わざわいなるかな、わたしは夏のくだものを集める時のように、ぶどうの収穫の残りを集める時のようになった。食らうべきぶどうはなく、わが心の好む初なりのいちじくもない。

² 神を敬う人は地に絶え、人のうちに正しい者はない。みな血を流そうと待ち伏せし、おのおの網をもってその兄弟を捕える。

³ 両手は悪い事をしようとするやまない。つかさと裁判官はまいないを求め、大いなる人はその心の悪い欲望を言いあらわし、こうして彼らはその悪を仕組む。

⁴ 彼らの最もよい者もいばらのごとく、最も正しい者もいばらのいけがきのようだ。彼らの見張びとの日、すなわち彼らの刑罰の日が来る。いまや彼らの混乱が近い。

⁵ あなたがたは隣り人を信じてはならない。友人をたのんではならない。あなたのふところに寝る者にも、あなたの口の戸を守れ。

⁶ むすこは父をいやしめ、娘はその母にそむき、嫁はそのしゅうとめにそむく。人の敵はその家の者である。

⁷ しかし、わたしは主を仰ぎ見、わが救の神を待つ。わが神はわたしの願いを聞かれる。

⁸ わが敵よ、わたしについて喜ぶな。たといわたしが倒れるとも起きあがる。たといわたしが暗やみの中にすわるとも、主はわが光となられる。

⁹ 主はわが訴えを取りあげ、わたしのためにさばきを行われるまで、わたしは主の怒りを負わなければならない。主に対して罪を犯したからである。主はわたしを光に導き出してくださる。わたしは主の正義を見るであろう。

¹⁰ その時「あなたの神、主はどこにいるか」と / わたしに言ったわが敵は、これを見て恥をこうむり、わが目は彼を見てあざ笑う。彼は街路の泥のように踏みつけられる。

¹¹ あなたの城壁を築く日が来る。その日には国境が遠く広がる。

¹² その日にはアッスリヤからエジプトまで、エジプトからユフラテ川まで、海から海まで、山から山まで、人々はあなたに来る。

- 13 しかしかの地はその住民のゆえに、そのおこないの実によって荒れはてる。
- 14 どうか、あなたのつえをもってあなたの民、すなわち園の中の林にひとりおる / あなたの嗣業の羊を牧し、いにしえの日のようにバシャンとギレアデで、彼らを養ってください。
- 15 あなたがエジプトの国を出た時のように、わたしはもろもろの不思議な事を彼らに示す。
- 16 国々の民は見て、そのすべての力を恥じ、その手を口にあて、その耳は聞えぬ耳となる。
- 17 彼らはへびのように、地に這うもののようになりなめ、震えながらその城から出、おののきつつ、われわれの神、主に近づいてきて、あなたのために恐れる。
- 18 だれかあなたのように不義をゆるし、その嗣業の残れる者のために / とがを見過ごされる神があるうか。神はいつくしみを喜ばれるので、その怒りをながく保たず、
- 19 再びわれわれをあわれみ、われわれの不義を足で踏みつけられる。あなたはわれわれのもろもろの罪を / 海の深みに投げ入れ、
- 20 昔からわれわれの先祖たちに誓われたように、真実をヤコブに示し、いつくしみをアブラハムに示される。

For other languages please go to www.wordproject.org